

1. 新コース設置の経緯と目的

プログラミング、AI、サイバーセキュリティといった高度な情報技術の進展や、デジタルトランスフォーメーション（DX）による需要の拡大に伴い、高度情報人材の必要性が一層高まっている。しかしながら、日本においてはこうした高度情報人材が著しく不足しており、その育成は喫緊の課題である。このような状況を踏まえ、文部科学省は高等専門学校に対し、「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化支援事業」を展開した。これを受け、本校情報機械システム工学科においては、新たに「高度情報工学コース」を設置するとともに、既存学科のカリキュラムを「総合工学コース」として再編することとした。

2. 募集人員・入試方法

情報機械システム工学科（定員 100 名のうち、育成選抜および推薦選抜での合格者は 85%を超えないものとする）

・高度情報工学コース 定員 40 名（40 名×1 クラス）

【育成選抜】高度情報エンジニア育成特別選抜（最大 20 名）

【推薦選抜】特別推薦選抜、一般推薦選抜

【学力選抜】学力選抜

・総合工学コース 定員 60 名（30 名×2 クラス）

【推薦選抜】特別推薦選抜、一般推薦選抜

【学力選抜】学力選抜

3. 高度情報エンジニア育成特別選抜について

以下の選抜を予定している。詳細については、後日配布する募集要項を参照のこと。

- ・2 年、3 年 1 学期（2 学期制の場合は前期）の調査書において、国語、数学、英語、社会、理科の 5 教科で 5 段階評定の総計が 40 以上かつ 9 教科において評定が 3 以上の者
- ・科学・技術や国際交流などに興味・関心を有し、志望する動機・理由が明確・適切である者
- ・本校への入学の意志が強固な者
- ・選抜検査日：11 月 1 日（土）・2 日（日）（検査日を受験生が選択）を予定

試験内容：午前：作文（与えられた課題解決を技術的に実現するためのアイデア）

：午後：面接（作文の内容に基づいた質疑応答、目的意識、学習意欲、適性など）

作文においては、試験の際に提示される課題に対して、その課題をいかに解決するか、どのように取り組むかについての記述を課す。

面接においては、作文内容に基づいた質疑応答を行う。これまでに、ものづくり、システム開発、プログラミングの経験がない場合も応募は可能であるが、これらの経験があることが望ましい。そのため、下記コンテスト等への参加も検討いただきたい。

4. その他

(1) 合格後の入学前学習

- (a) 本校教員の指導を受け、入学までの間、休日や冬休み、春休みなどを利用
- (b) AI 等の最新技術に触れることで、高度情報人材教育へのスムーズな導入を図る

(2) 高度情報エンジニア育成特別選抜での入学のメリット

- (a) 入学前から高度情報人材教育を基礎に継続して受けることができる
- (b) 海外研修や本校の国際交流事業に優先的に参加（渡航費などを優先的に支援）
- (c) 三重県警察サイバー防犯ボランティアへの優先参加

(3) 高度情報エンジニア育成特別選抜の出願において必須ではないが、ものづくり経験として有用なコンテスト等の例

- (a) U16 プログラミングコンテスト（三重大会は 9 月 20 日（土：予定）に鳥羽商船高専にて開催）
- (b) 本校公開講座

・マイコンプログラミングで課題解決【micro:bit】 ※2 回とも同じ内容

第 1 回：8 月 19 日（火） 9：00～15：00 開催

第 2 回：8 月 21 日（木） 9：00～15：00 開催

・マイコンプログラミング講座【IchigoDyhook 初級】 ※3 回とも同じ内容

第 1 回：8 月 21 日（木） 9：00～12：00 開催

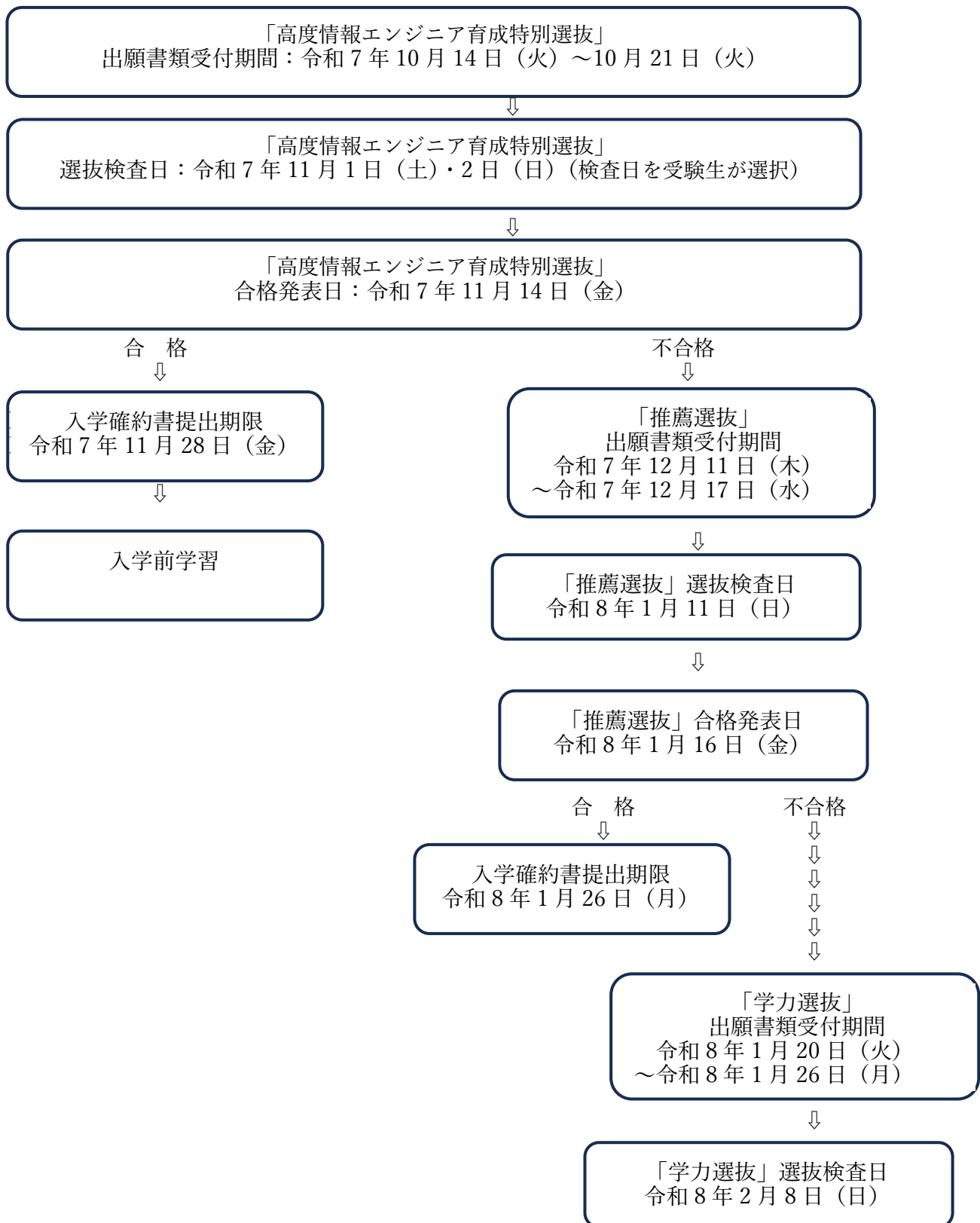
第 2 回：8 月 21 日（木） 13：00～16：00 開催

第 3 回：8 月 22 日（金） 9：00～12：00 開催

・マイコンプログラミング講座【IchigoDyhook 中級】

第 1 回：8 月 22 日（金） 13：00～16：00 開催

情報機械システム工学科入学者選抜 フロー図



- ※ 高度情報エンジニア育成特別選抜で不合格となった場合も、推薦選抜、学力選抜を受験することができます。その際には検定料の再納付は不要です。
- ※ 特別推薦及び一般推薦選抜は、高度情報工学コースまたは総合工学コースから第2志望まで志願することが可能。
- ※ 学力選抜は、高度情報工学コースまたは総合工学コースおよび商船学科から第3志望まで志願することが可能。